

骨塚より。一刀二股。小破壊され。悲哀也。右噴氣烈の英雄也。これのみ
がちと持るべし。朽てる大樹の倒る如く。天相小擅と皆どもろ成四天
王也。又玄湯蒐縛て。惜や首戒松頑。在たりしが秀吉天下に主と成りて世成を起れ
名をもりて大野源左衛と改名し。九死ふあり。備前大將信長公。後堂御
子の面と種物の費せり。自ら首もて死をとひ。備前大將信長公。後堂御
と室をゆき。四方の閑門よ大を放ち。そのあやふ投ひ。御生害成ぞ
ましくける。逝年四十九歳。よてからくる。嗚呼悲哉。天文三十年六月二日
せふも如何なる惡也。過者天文の初。弘長公天文三年より。今天正十
八年六月まで。海内小縱横。すひ。威を知の隨ふ奮ふ。天下に崩礼
せ頃。庶民が食糞の中に殺ひふ。畿七道の敵國も。その英名を聽と
む。天魔鬼神のゆくに恐畏。征ざる。半の降る革支。アリ。所外ハ三倍
右大臣に昇進し。大業既小成続を。延續え。秀がためふ弑せられ
ゆひし。秀。秀憾とつもあらう。御傍み在合。を士庵後継。御尊
骸み茶毗具を蔽掩する。四方より大城うけて。其傍に座を連称。腔十
文字に芟刈て。食齊一小大に射殺す。殉死せること哀哭あり。追脇獨
も御所方小さく歿。されず。兵士輩九十餘人。遠場那庭に端止。壁身ふ
ありて若戦せし。大書院より御縫不遙。大敵と燃熾り。天衢よ冲る。許
に刃を。剣身の主君の御生害すくと察し。まあ。各々敵と連
利。一割も残らず。戰死して。忠義ふ其名成轟せし。嘆び。賞す爲し